古石ひでさと4期目に向かっての議会活動　ひでさと

古石　後援会だより

URL：http://古石.com/

第　3828号
発行令和3年8月
古石　ひでさと後援会事務所
岩見沢市幌向南1条1丁目

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。

E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

稲刈り始まる

昨年より10日早く「ゆめぴりか」の収穫を始めた山本克幸さん

黄金色の稲 実りたわわ

南幌の水田で収獲始まる

空知を耕す

【南幌】町南17線西3、稲作農家山本克幸さん(63)の田んぼで24日、稲刈りが始まった。空知管内は7月以降、高温少雨傾向が続いていることから、山本さん方の稲刈りは昨年より10日早いという。黄金色に染まった「ゆめぴりか」がみるみるうちにコンバインに刈り取られた。

山本さんは約6秒でコメを栽培し、全量を自家精米して販売しており、顧客にいちはやく新米を届けている。今季は昼夜を問わずに田に水を流し続け高温障害防止に努めた。病害虫の被害は少なく、反収（10アール当たり収量）は昨年と同様の「8・5俵（1俵は60キロ）は見込めそうだ」という。

米食味全国コンテストの常連参加者でもある山本さんは「夏の高温が食味に対してプラス、マイナスどちらに働いたか、すごく興味がある」と目を輝かせた。

空知総合振興局によると、8月15日現在、水稲の生育は平年より7日早い。平年なら9月中旬以降が最盛期の管内の稲刈りも、早まりそうという。

（土屋孝浩）

専門家 学校再開に懸念

若年層の感染拡大に危機感

緊急事態宣言の対象に8道県を追加することが決まった24日、新型コロナウイルス対策分科会の尾身茂会長ら専門家から、夏休み後の学校再開による感染拡大を懸念する声が噴出した。1週間の20歳未満の感染者が、春の「第4波」のピーク時の4倍以上に増加するなど、若年層に感染が広がっているため、2学期が始まった道内も含め、強い危機感が示された。（小森美咲、大沢瑠子）

宣言に「慣れ」人出減鈍く

「学校が始まると、一度に感染スピードが劇的に変化する。また感染拡大があり、医療崩壊もあり得る」。尾身氏は24日の衆院厚生労働委員会で強調。全国一斉の休校は感染抑制の効果を認めた上で「（学校の）始まる時期を見据えるのは各自治体の判断で検討してもらいたい」と述べた。

厚生労働省と新型コロナ対策を助言する専門家組織「アドバイザリーボード」も同日、保育所や学校に対し、感染対策の強化を求める提言をまとめた。教職員へのワンチン接種も前倒しで進めた際の抗原検査の活用などを盛った。

委員会では、全国一斉の休校は感染力の強い変異ウイルスに対応できないとの意見が相次いだ。専門家組織座長の脇田隆字・国立感染症研究所長は「全体の感染者数が増えているから、子どもの感染者も増えている。子ども同士の二次感染リスクはそれほど高くない」と分析する。

緊急事態宣言の効果は低減し、感染者が多い状況への「慣れ」もうかがえる。全国の繁華街の人出を分析している東京都医学総合研究所によると、宣言が続く東京の午後9時～午前0時の人出は、新型感染者が急増した、北海道でも20以下の感染者数が増加傾向で、8月24日には、緊急事態宣言に占める若年者の割合が3月末に比べ、1.5倍に上昇。専門家組織座長の脇田隆字国立感染症研究所長は「全体の感染者数が増えているから、子ども同士の感染者も増えている。子どもの感染者の二次感染リスクはそれほど高くない」と分析する。

緊急事態宣言の効果は低減し、感染者が多い状況への「慣れ」もうかがえる。全国の繁華街の人出を分析している東京都医学総合研究所によると、宣言が続く東京の午後9時～午前0時の人出は、新型感染者が急増した、北海道でも20以下の感染者数が増加傾向で、8月24日には、緊急事態宣言に占める若年者の割合が3月末に比べ、1.5倍に上昇。専門家組織座長の脇田隆字国立感染症研究所長は「全体の感染者数が増えているから、子どもの感染者も増えている。子ども同士